

サマースクールを行いました

7月 25 日に、サマースクールを行いました。幼稚部と小学部に、たくさん子どもたちが集まり、大いに盛り上がりました。参加いただいた皆様、ありがとうございました。また来年もみんなで集まって、楽しい時間を過ごしましょう。

【幼稚部】

年々、夏の暑さが増してきていますが、プールの上にテントを張り、暑さ対策をしながら楽しい活動を継続しています。今年度は、本校 1 名の幼児と、外部から 3 名の参加がありました。姉妹を含め計 7 名のお子さんと水遊びをしました。

今回は、大きめのプールを用意しました。暑いからでしょうか、すぐにみんな水につかりました。プールの水を掛け合ったり、水鉄砲で打ち合ったり、遠慮なく遊び始めました。手作りウォータースライダーに場所を移すと、水風船の爆弾を投げつけて割るなど、ダイナミックな遊びが始まりました。液体石けんで滑りやすくしたスライダーは、スーッと滑っていく疾走感を楽しめ、飽きが来ないようでした。疲れてきたら、ペットボトルをつなげて水を流して遊ぶコーナーや石けんでの泡遊びで小休憩をする子もいました。スイカ割りの時間になると、みんなで交代して挑戦した後、おいしくいただきました。終わりの会でも、部屋でかき氷を食べて、大満足でした。



【小学部】

本校 3 名、他校 13 名の児童が参加しました。自己紹介の後、みんなで「じゃんけん列車」「進化じゃんけん」「ハンカチ落とし」「ばくだんゲーム」をしながら交流を深めました。来た時には、久しぶりに会う友達や初めて会う友達がいて、緊張した顔をしている児童がたくさんいました。しかし、アイスブレイクの「じゃんけん列車」と「進化じゃんけん」が終わるころには、みんなの表情が和らぎ、楽しそうに交流する様子が見られました。「ハンカチ落とし」では、ハンカチが落ちた場所を声に出して伝えない代わりに、目線や表情でハンカチの落ちた場所を友達に上手に伝えていました。「ばくだんゲーム」では、音楽が止まったときにばくだんを持っていてアウトになった人は、自分の好きな動物やおやつ、色を発表しました。活動を通して仲良くなった友達のことをもっと知ることができました。最後の感想発表では、たくさん子どもたちが楽しかった活動を発表し合いました。



公開講座を行いました

8月22日に公開講座を開催しました。今年度は難聴の児童生徒に関わる教師だけでなく、支援員やソーシャルワーカー、松山市の手話講座を受講中の方など外部から幅広く21名の方にご参加いただきました。また「聴覚障がい児・者の生活について」と題して、昨年度、国立特別支援教育総合研究所で専門研修を受講した教員が講座を担当しました。生後間もない段階から高等部を卒業するまで、ライフステージごとの具体的な話を聞き、今取り組んでいる支援や教育活動の意味をより深く理解することができたと思います。

全部で4つの講座を開講し、受講後の参加者からは「発音指導について悩んでいたが、今回学べて良かった。」「難聴の方がどのような生活を送っているのか知ることができた。」などの所感をいただきました。



〈聴覚障がい児・者の生活について〉



〈発音・発語指導の実際〉



〈難聴の理解とコミュニケーション〉



〈聴覚障がい児の教科学習〉

筑波技術大学の先生に話をさせていただきました

8月22日の午後、筑波技術大学の田中豊大先生に「聴覚障がい児への英語教育～きこえない・きこえにくい大学生の語りから得られるヒント～」というテーマで、田中先生がこれまでに経験してきた英語教育についてお話をさせていただきました。お話の中では、学びの場や教育歴、聴力等によって、同じ聴覚障がいであっても英語に対するニーズが多様化することを質問紙調査の結果から示していただきました。英語の学び方も、本人と教師が話し合いながらいろいろな学び方を試していく中で、自分に合った方法を見つけていくことが大切であると教えていただきました。また、田中先生のこれまでの実践も紹介していただきました。英語の発音を習得したいニーズのある児童生徒に対しては、ろう教育で伝統的に行ってきた発音指導の技術を転用したり、キューサインなどの発音誘導サインを活用したりすることも可能であると話していただきました。今回お話をいただいたことを、本校の今後の英語教育や特別支援学校センター的機能充実事業において他校に在籍する聴覚障がい児のサポートをする際に生かしていきたいと思います。

